

史籍解題について

■史籍解題とは

東洋史学専攻では毎年1回生の研究入門において、史籍解題と呼ばれる作業を行う。史籍解題とは、簡単に言えば東洋史研究に利用される歴史史料について調べることである。これは歴史を研究するための基礎的作業のひとつであり、史籍を取り扱い、必要な文献を探し、卒業論文を書き上げるための能力を養うことを目的とする。

■具体的手順

『教学の手引き』p17、見本中の参考文献の項を中心に文献を収集し、以下の項目を埋めるよう情報を抽出していく。

著者に関して調べる

著者の生涯や事蹟、官職歴などについて調べる。

成立年代・成立過程について調べる

何年に完成し、何年に献上されたかなど。

版本・注釈書について調べる

版本とは、同名の史料を印刷の方法・年代・地域等で分類して識別する際の呼び方である。注釈書とは、本文に対して注釈を施したもので、十種類に及ぶ注釈を持つ資料もある。また、日本で刻されたものは和刻本と呼ばれ、訓点を施したのものもある。版本には漢籍と洋装本がある。「全国漢籍データベース」や『立命館大学漢籍分類目録』には洋装本は掲載されていないので注意すること。

※「全国漢籍データベース」や『立命館大学漢籍分類目録』を丸写ししても意味がない。

版本を利用する上で理解しておくべき問題点などもあれば説明できるようにする。

その他の参考書籍について調べる

その他の参考書としては、研究書や訳本・索引などが挙げられる（ただし、史料によっては存在しないものもある。全ての史籍に訳本や索引があるわけではないので、史料に応じて各自で分類する）。

内容・編目について調べる

ひとつの書名であっても複数のいわゆる巻と冊に分かれている書物が大部分である。巻数・内容について調べる。

資料的価値を調べる

その史料がどのような価値を持っており、研究にどのように利用されているか、利用すべきかを調べる。成立過程と併せて理解を深める。

その史料を用いた研究論文を調べる

歴史学の研究論文は、史料に基づいて論を展開している。その史料を用いた歴史学の研究論文をひとつ取り上げ、その史料のどの部分がどのように用いられているかをまとめる。

※できればその史料が直接引用されている論文が望ましい。

参考文献を付す

レジュメ等の末尾に、自分の利用した文献を記載する。編著者・出版社・出版年も忘れずに。

■夏季レポート

- 左記の手順で調べた事柄を、レポートの体裁にまとめる。レポート提出は先生の指示に従ってください。余裕を持って取り掛かりましょう。

■発表について

- 後期の個人発表では、各人でレジュメを用意する。レジュメの体裁の例は『教学の手引き』を参照。ただし『教学の手引き』に掲載されているものは、あくまでも見本であり、工夫の仕方は様々にあります。

※レポートの文章をそのまま転載したレジュメでは、レジュメを作る意味がない。

レジュメをただ読み上げるのを発表とはいわない。

- 出来れば発表日の2週間前には、一度共同研究室に顔を見せに来て下さい。1週間前には一度レジュメの体裁にして、TAのチェックを受けましょう（早くできればもっと前でも構いません）。必ず前もって準備を進めましょう。**発表直前に駆け込まれてもTAは何もできません。**
- クラスにて配布するレジュメの印刷には、学内の輪転機を使います。その使用許可申請書は、共同研究室にてTAが発行します。発表前日までに受け取りに来て下さい。発表の際にクラスにて回覧する史料は、担当教員の指示に従って下さい。漢籍が必要であれば、学部生では自ら借り出せないため、専攻TAを通して申請する必要があります。発表前日までに専攻TAに申し出て下さい。

※いずれも発表当日に来ないで下さい。

- 発表終了後は必ず、レジュメを一部、共同研究室に提出して下さい。**提出するレジュメには、①発表の際に受けた質問や意見、②それを受けて新たに分かったこと、修正が必要なことなど、発表してどうであったかをTAに報告するつもりで、上から書き込みをしておいて下さい。提出されたレジュメは、次年度以降のTAの引き継ぎや、業務改善のための参考資料とします。

■注意点

- まずは自らが担当する資料を手にとることから始める。**最低限目を通すべき工具類等については『教学の手引き』に挙げられている（p26～30）。**

※「ウィキペディア」をはじめとする、著者不明の無責任なインターネットなどの情報は、参考文献として利用できない。

- 訳本・注釈書等には解題がなされている場合が多い。しかし、その内容は細かく且つ高度なものである場合が多い。一通りの作業を並行しながら参照することが望ましい。
- その他分からない点があれば、遠慮せずTAに何でも聞いてください。

■夏季のTA勤務について

- 7月中は通常通り勤務を行います。勤務表（4月に配布済み）を確認して共研に来て下さい。
- それ以外の日の勤務はありませんが、個人的な事情で学校に来ていることもあります。個人的にアポイントを取ることもできますので詳しくはTAまで。
- 9月休暇中の勤務日時は、**9月12日から23日までは平日（祝日を含めない）の13時から16時の時間です。**
9月26日（月）の後期セメスター開始後は通常通り勤務します。

2011 年度後期 TA共同研究室勤務表

	月	火	水	木	金
1					
2					
3	三浦	奥		奥	
4	奥	三浦		奥	
5	※		※	※	※

★TAは上記の時間には清心館3Fの東洋史共同研究室にいます。質問・相談等のある方は、声を掛けてください。

なお、上記の勤務表の※の時間帯は、専攻TA・研究入門TAは不在ですが、学会等の業務のために院生が詰めております。（月・金については18～19時）。質問・相談はそちらでも受け付けております。

★金曜の二限、三限は大学院の授業が共同研究室で行われています。この時間は、共同研究室の西側スペースの使用はご遠慮ください。

夏季休暇中の勤務担当時間

奥：9/12、13、15、20、22（月、火、木）

三浦：9/14、16、21（水、金）

■その他諸注意事項

7～9月の図書館および文献史料室の開館時間および貸出に関する規定は別紙参照。
計画的な学習を進めてください。

2011年7月15日
東洋史学専攻共同研究室